

令和7年度 赤穂市立塩屋小学校 学校関係者評価

学校名 赤穂市立塩屋小学校

1 本年度の学校経営方針

(1) 教育目標

ともに学び、仲よく遊ぶ児童を育てる ～自ら考え、学び合い、志を高く～

(2) 校訓

【明く】

【清く】

【強く】

めざす学校像

- 保護者、地域とともに歩む学校
- 安全・安心の保障された学校
- 環境が整備されたうらおいのある

めざす児童像

- あいさつができ、友とわかり合う子
- 真剣なまなざしで学習にのぞむ子
- 健康で明るく元気に遊ぶ子

めざす授業像

- 児童全員が主体的に参加する授業
- 児童同士の関わり合い、学び合いがある授業
- 言語活動をとおして、伝え合う力を高

求める教師像

- 児童の人権を大切にし、関わり続
- ける教師
- 常に授業の向上をめざす教師

(3) 学校経営の基本理念

人権尊重の精神を基盤とし、安全・安心で、学びがい、応援しがい、働きがいのある学校をめざした学校経営を行う。

- ・児童のよさや可能性を伸ばさせ、自己肯定感や自己有用感を高揚させる指導の充実を図る。
- ・すべての児童に基礎・基本の徹底を図り、主体的に学び続けるための指導方法の工夫改善を図る。
- ・児童が安全で安心して生活できる校内体制整備と充実を図る。
- ・保護者・地域とともに歩む学校づくりを進める。
- ・すべての教職員が、職業人としての自己の成長を感じつつ、充実感を味わい、塩屋小の一員であることを誇りに思う「働きがいのある学校」をめざす。

(4) 重点課題

① 保護者・地域と連携した教育の推進

- ・保護者・地域住民の学校運営への参画
- ・学校評価、保護者アンケートの教育活動への反映
- ・ふるさと意識の醸成

③ 配慮を要する児童への対応

- ・児童の実態と内面理解に基づいた指導と支援
- ・就労までを見据えた保護者との共通理解と関係機関連携
- ・常に「気にかける」「目をかける」意識

⑤ 児童の規範意識・マナーの向上

- ・きまりを守ろうとする意識
- ・行儀・礼儀の心と公共の精神を高める指導
- ・相手を意識し、大切にすることを基盤とした言葉遣い

⑦ 不登校の解消・いじめへの対応

- ・未然防止のための魅力ある学校づくりの取組
- ・早期発見・早期対応・組織としての対応
- ・家庭・関係機関・学校の情報連携と行動連携の強化

② 学力向上への授業改善・授業力向上

- ・児童の学習意欲を喚起し、全員が主体的に参加できる授業づくり
- ・学び合いがあり考えが深まる授業づくり
- ・基礎学力を獲得できる授業づくり

④ 特別支援教育の更なる充実

- ・職員の理解と実践力の更なる向上
- ・校内指導・支援体制の確立
- ・関係機関との連携による支援体制と支援方法の研究・実践

⑥ 危機管理意識・管理体制の確立

- ・安全配慮義務の徹底と対応マニュアルの見直し
- ・防災体制・防災意識と地域安全体制の確立
- ・食物アレルギーへの理解と対応の体制

⑧ 学校組織力の向上・学校業務改善

- ・教育目標・重点課題の共有化
- ・職員の協働体制、成果の共有化
- ・学校業務の工夫改善
- (子どもと向き合う時間の確保、メンタルヘルスの保持増進)

【総合的な学校関係者評価】

・教育目標に「志を高く」の言葉が入っているのは児童の人格形成に深みを与えると感じます。
・児童一人一人を大切にされた教育が推進されていると感じます。いじめに対する早期対応の取組も評価できます。職員が困りごとの相談にのったり、日々の状況を伝えてくれたりと一生懸命教育に携わっている様子が分かります。
・学校が児童にとって楽しいと思える居場所であるように環境づくり、教師の声かけなどで、自己肯定感が高まっていくと思います。今後とも指導をお願いします。
・学校の環境は良く整備されていると思います。中庭などを開放しているのも評価できます。
・挨拶ができています。大人が見本を示して、さらに心地よい挨拶ができるようにしていきたいです。
・学校、家庭、地域がそれぞれの役割を担い、また連携して人と人とのつながりを学んでほしいです。
・児童の地域行事の参加への取組を進めてほしいです。
・協調性のある温厚な児童が多いと思いますが、今後は自分の意見を伝え、積極的に物事に取り組み、みんなを引っ張っていくような人材を育てる必要があると思います。より一層楽しい学校になることを目指して取組をお願いします。

【学校関係者評価】

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

2 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

| 観点 (実践の柱) | 評価項目(学校・教師の取組) | | 評価資料等 | 達成状況 | 改善の方策 |
|--------------|----------------------|--|-------------------------------------|------|--|
| | 評価指標及び目標値(期待される児童の姿) | | | | |
| ① 保護者・地域との連携 | 項目 | 児童の主體的な学びを尊重し、生涯学習社会を見据えた学校づくりに努めることができたか | 児童アンケート 入学式 | B | 「毎日楽しく学校に来ている」と答えている児童が多く、保護者アンケートでも概ね評価されているが、さらなる改善のために、以下のことに取り組んでいく。 ○行事や校外学習の事前・事後指導を強化し、体験活動を計画的に充実させていく。 ○地域と連携した学習活動を通して、主体的に学ぶ力の育成を図っていく。 |
| | 指標 | 毎日楽しく学校に来ている | 保護者アンケート | | |
| | 項目 | 各通信・参観日等オープンスクール・ホームページなどで情報を提供したり、保護者からの相談を受けたりすることができる開かれた学校づくりに努めたか | 児童アンケート 学年通信 ホームページ | B | 教職員評価は 高い水準であり、児童・保護者からも概ね良い評価を得ている。今後は、以下のことに取り組んでいく。 ○参観日やオープンスクールでは、児童の様子がよく伝わる授業や保護者が参加できる活動を取り入れ、学校の教育活動への理解と家庭との連携を深める取組を進めていく。 ○参観日、オープンスクール以外でも、地域・保護者が学校に参画しやすい取組を考えていく。 |
| | 指標 | 学校からの連絡を見せたり、学校であったことを家の人に話したりしている。 | 保護者アンケート | | |
| | 項目 | 学びの機会を充実するとともに、家庭と連携して学習習慣を身につけるように工夫したか | 児童アンケート 学級懇談会 個別面談 | A | 学習習慣の定着や学校・家庭・地域の連携はおおむね機能しているが、さらなる質の向上に向けて、取組を進めていく。 ○学級懇談会や個別面談などで、家庭学習の意義や支援方法を保護者へ伝え、家庭との協働体制を強化する。 |
| 指標 | 家庭学習をきちんと提出している | 保護者アンケート | | | |
| ② 確かな学力 | 項目 | 児童の実態に応じた学習課題を設定し、意欲を持って、自ら学び、自ら考える力を育成するように努めたか | 児童アンケート パワーアップ学習 | A | 保護者評価から、児童が学習内容は理解しているが、意欲的に学ぶことにつながっていないことがうかがえた。そのため、児童が「もっと学びたい」と思える課題設定や授業づくりをしていく。 ○課題解決学習や体験学習を増やし、自分事として考えられる授業づくりを行う。 ○ICT活用を充実させ、主体的な学習を設定する。 |
| | 指標 | 学校の勉強が楽しく分かりやすいと感じている | 保護者アンケート | | |
| | 項目 | 基礎・基本的な内容を明確にし、評価の基準を定め、指導方法を工夫改善して理解の徹底を図ったか | 児童アンケート 学力テスト等 | B | 本年度の研究において指導方法の工夫改善を行ってきた。しかし、児童、保護者の評価から、学習内容の理解はできているが、まとめたり、伝えたりする力が弱いことが課題として挙げられる。今後は以下のことに取り組んでいく。 ○友達との対話を通して考えが深まる場を設定する。 ○ICTを活用し、調べる・まとめる・表現する活動を充実させる。 ○授業の振り返りや見通しを明確にし、児童が主体的に学ぶ授業を展開していく。 |
| | 指標 | 学習内容を目当てに沿ってまとめたり発表したりすることができる | 保護者アンケート | | |
| | 項目 | 家庭学習の定着及び充実を図ることができたか | 児童アンケート | B | 教職員、保護者の評価は高かったものの、児童評価は8割にとどまった。児童の家庭学習に対する意欲を向上させるために次のことに取り組んでいく。 ○読書習慣や朝学習を充実させ、学習の土台となる基礎学力を継続的に育てる。 ○家庭学習の内容を見直し、「できた」「わかった」が実感できる課題を設定する。 ○パワーアップ学習を推奨し、自己の課題をつかみ、自分に合ったよりよい家庭学習の仕方考える機会を設ける。 |
| 指標 | 意欲的に家庭学習をしている | 保護者アンケート | | | |
| ③ 健やかな体 | 項目 | 「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、子ども達に声かけ等の働きかけをすることができたか | 児童アンケート 生活実態アンケート 早寝早起き朝ごはん運動 | B | 児童アンケートでは80%、保護者アンケートでは70%とやや低い傾向にある。この項目は学校と家庭との連携が最も重要である。 ○「早寝早起き朝ごはん運動」や生活実態アンケートの結果を活用し、保護者にも働きかけをしていく。 ○強化週間には、生活習慣チェックを学年で統一するなど家庭への働きかけの統一化を図り、計画的に指導を行っていく。 |
| | 指標 | 「早寝・早起き・朝ごはん運動」の目標を設定し、守っている | 保護者アンケート | | |
| | 項目 | 望ましい食習慣を養う一助となるよう、給食の時間の充実を図ることができたか | 児童アンケート 保護者アンケート | A | 児童アンケートからも給食の時間は落ち着いており、望ましい食習慣を育てる土台は整っている。 ○今後も、給食の時間を利用して、児童一人一人が食べられる量を設定し完食できることをめざし、栄養面やマナー面の指導の充実を図る。 |
| | 指標 | 給食のきまりを守って食べている。 | | | |
| | 項目 | 一人一人の体力・運動能力の向上を目指し、外遊びを奨励したり、体育の時間の充実を図ることができたか | 児童アンケート 新体力テスト | B | アンケートの結果から教職員、児童、保護者三者ともに低い傾向にある。今後も外遊びの奨励や体育の授業改善に取り組んでいく。 ○昨年度は体育倉庫、今年度は中庭やしおさい園を開放した。今後も休み時間の外遊びを促進するため、児童が自然に体を動かせる環境を整える。 ○体育の授業では個別の目標を設定し、児童が達成感を得られる授業づくりを行っていく。 |
| 指標 | 外で元気に遊んでいる | 保護者アンケート | | | |

| 自己評価は適切か | 改善方策は適切か | 課題と次年度具体的改善方法 |
|----------|----------|---|
| ○ | ◎ | ・学校に来ることが楽しいの評価が高学年が低い傾向にあるため、改善に取り組んでほしい。 ・児童、保護者ともに評価が高いため、自分たちの頑張りをもっと評価してほしい。 ・今後とも参加日以外にも地域・保護者が学校に参画しやすい取組を考えてほしい。 ・Googleフォームの活用は良い。 ・地域を巻き込んだ取組を小学校から発信してほしい。 |
| ○ | ◎ | ・朝の学習タイムや読書の時間が設けられており、改善につながっている。 ・タブレットを使って楽しく学べる取組を行っている。 ・児童が自らが学び、自ら考え力の育成は今後とも継続してほしい。 ・理解はできているが、まとめ方が分からないのではないかな。そのため、まとめ方の指導を行う必要がある。 ・グループ活動の中で討論できる児童を育ててほしい。 ・正解を求めない環境作りが大切である。 |
| ○ | ◎ | ・早寝早起き朝ごはんの取組の評価が低いのが、幼稚園とは異なっているため、保護者とも連携して進めてほしい。 ・食事の正しいマナーを身につけてほしい。 ・中庭やしおさい園を開放することで、多様な遊びを保障している。ベンチを置くなどさらに児童に適した場所に変えていってもよい。 ・運動に楽しく取り組めるように、3学期に行われた朝マラソンのような取組を考えてほしい。 ・この項目は個人差があるため、家庭での連携をどのように行いか課題である。保護者への啓発や成功事例の共有を生かして行ってほしい。 |

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

| 観点 (実践の柱) | 評価項目(学校・教師の取組) 評価指標及び目標値(期待される児童の姿) | | 評価資料等 | 達成状況 | 改善の方策 |
|----------------|--|--|----------------------------------|------|--|
| ④ 豊かな心 | 項目 | 児童一人一人の実態を的確に捉え、全職員で共通理解して適切な指導を行うことができたか | 児童アンケート 保護者アンケート | A | 児童評価が高く、学校には相談しやすい雰囲気があることがうかがえた。 ○今後も、教育支援委員会などを定期的に行うことで、児童に寄り添う指導を行う。また、支援の必要な児童は職員会議で全職員で共通理解していく。 |
| | 指標 | 困ったことを相談することができる | | | |
| | 項目 | 人権教育を全教育活動に位置づけ、差別や偏見を解消するため実践力を培うよう努めたか | 児童アンケート 保護者アンケート | A | 児童評価から、他者の価値を認め、肯定的に関わろうとする姿勢が育っていることがうかがえた。 ○児童の自己肯定感や他者理解を育むために、多様な人との関わりを通して人権感覚の育成に努める。 ○新たな人権課題に対して、職員研修を行い、人権に対する感覚を共有していく。 |
| | 指標 | 友達の良さががんばりを見つけ、広めようとしている | | | |
| | 項目 | 全ての教育活動の中で道徳性を培うように配慮し、道徳的实践力を育成するように努めたか | 児童アンケート 保護者アンケート | A | 児童評価がやや低めだったことから、学んだ価値を日常生活で実践する力が今後の課題である。 ○道徳科の授業改善、授業研修の機会をもち、教職員の指導力向上を図っていく。 ○終わりの会や係活動など日常の活動と道徳的価値を関連付けることで道徳的実践力を育成していく。 |
| | 指標 | 道徳の時間で学んだ価値を、生活の中で生かそうとしている | | | |
| ⑤ 生徒指導 | 項目 | 学級活動や学校行事に進んで参加し、学級や学校の諸問題の解決に努めるように指導したか | 児童アンケート 運動会・音楽会 | A | 保護者評価が非常に高く、体験活動や学校行事での児童の成長を実感されていることがうかがえた。 ○兵庫版キャリアパスポートやキャリアノートなどを利用し、児童が自己の成長を実感できるような取組を行っている。 |
| | 指標 | 意欲的に話し合いに参加し、協力して活動している。 | 保護者アンケート | | |
| | 項目 | 児童の実態を的確に把握し、生徒指導上の問題行動等を未然に防ぐよう働きかけるとともに、問題行動発生時には、適切に対応できたか | 児童アンケート 個別面談 | A | 教職員、児童、保護者三者ともに非常に評価が高い。 ○学校のきまりや約束など、生活指導委員会を中心に話し合い、全職員共通理解のもと指導にあたる。 ○問題行動が発生した場合は、事実確認→背景理解→指導→保護者連携の流れを統一し、複数の関係職員により連携して迅速に対応する。 |
| | 指標 | きまりを守り、正しい生活を心がけている | 保護者アンケート | | |
| | 項目 | いじめ・不登校等の諸問題について、迅速に組織的な対応をするとともに、早期解消に向け、保護者等との連絡を密にしながら、計画的に支援・指導ができたか | 児童アンケート 保護者アンケート 学校生活アンケート | A | いじめ・不登校等の諸問題への対応に関する三者の評価がいずれも高い。 ○いじめアンケートの結果をもとに、未然防止、早期対応をしていく。 ○いじめ解決後も3か月を目途に様子を確認するなど継続指導を行う。 ○不登校児童の保護者との連絡を密にし、支援をさらに充実させる。 |
| | 指標 | 困っている友達に関わろうとしている | | | |
| ⑥ 児童をとりまく環境の整備 | 項目 | 道徳性の向上と規範意識の醸成に向けて、計画的に指導できたか | 児童アンケート 保護者アンケート | A | 教職員、児童、保護者三者の評価はいずれも高い ○児童の実態を把握して、計画的に道徳科の授業を行い、実践的な態度につながるようにしていく。 ○学級目標や係活動に道徳的価値を関連づけるなど、日常生活の中で規範意識を育てる指導を行う。 |
| | 指標 | 物事の善し悪しについて理解し、言動に表している | | | |
| | 項目 | 危険箇所、危険物の除去・改修等に心がけ、清潔で衛生的な環境整備に努めたか | 児童アンケート 保護者アンケート | B | 教職員評価がやや低めであったことから、より安全で安心できる環境整備に取り組んでいく必要がある。 ○毎月の安全点検を教職員が分担して行い、児童にとって危険な箇所を速やかに修繕できるように来年度も継続して行う。 ○生活目標を毎月設定し、さらに各学級や学年で実態に応じた具体的方策を児童自身に考えさせることで、児童の安全意識を高める指導を行っていく。 |
| | 指標 | 生活目標をきちんと守って生活している | | | |
| | 項目 | 教育活動を充実させるための教育的環境の整備に配慮し、研修内容を実践に活かし取り組んだか | 児童アンケート 保護者アンケート | A | 掃除時間の様子から、特に高学年で無言清掃を意識している児童が増えてきている。 ○生活指導委員会を中心に引き続き教職員が「無言清掃」を共通理解して指導していく必要がある。 |
| | 指標 | 掃除をすることの意義を理解し、美しい環境を保っている | | | |
| | 項目 | 友達を尊重した呼び方をし、相手への嘲笑や侮辱、厳しい非難の言葉を解消するよう指導できたか | 児童アンケート 保護者アンケート | A | 全項目の中で三者ともに最も高い数値であった。 ○名前を大切にすることが、友達を大切にすることであることを全教職員が共通理解して、よい習慣を定着できるように指導していく。 |
| | 指標 | 友達を大切にした呼び方をしている | | | |

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、下記のA・B・C・Dで自己点検を行い、ポイントに換算し、教職員数で平均している。
A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント
※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

| 自己評価は適切か | 改善方策は適切か | 課題と次年度具体的改善方法 |
|----------|----------|--|
| ◎ | ◎ | ・体験活動に今後ともいろいろな取り組みでほしい。 ・児童が悩み事を相談できる環境づくりを今後も継続して取り組んでいってほしい。 ・道徳の時間に学んだことを実生活にも生かす指導をしていく必要がある。 |
| ◎ | ◎ | ・いじめアンケートの活用で、早期対応していることは評価できる。不登校児童の増加に対しても早めの対応をしていってほしい。 ・いじめ・不登校問題は早期発見できるよう全職員で取り組んでほしい。 |
| ◎ | ◎ | ・児童が主体的に危険を察知して行動できる力の育成が必要である。 ・無言清掃では高学年が手本となって示すことで低学年の意欲も高めていってほしい。 ・危険箇所は早期改修につとめ、児童の安全に努めてほしい。 |

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

○学校行事やPTA活動を基軸とし、保護者・地域との連携を意識して教育活動にあたる。
○児童が自然にICT機器(タブレット端末)を活用できるよう、発達段階に応じた計画を立てる。また、教職員研修を通して、ICTの活用を共有し、授業改善に生かす。
○児童が自分自身に対して肯定的に評価ができるよう、児童の学び合いを充実させ、自己肯定感を高める取組を行う。
○個別学習→協働学習→振り返りの流れを授業の展開に取り入れ、個別最適な学びと協働的な学びの両立を図る。